

審 議 経 過

1. 開会

2. 辞令書交付

3. 市長あいさつ

伊万里市長 深浦弘信

4. 委員長、副委員長の選出

下記のとおり決定

委員長： 田代 勝良 氏（佐賀県社会福祉士会）

副委員長： 福島 厚 氏（伊万里市社会福祉協議会）

5. 協議

(1) 第5次伊万里市地域福祉計画／地域福祉活動計画策定に向けて

資料を用い、計画に盛り込むべき事項や基本目標などについて説明を行った。

（委員長）説明の補足をする、地域福祉計画は地域共生社会の実現に向けて策定され、それぞれの福祉計画の上位に位置づけられている。各福祉計画は、いわゆる縦で作成されているので、それを横断的に作成する計画がこの地域福祉計画である。地域福祉計画は行政計画であるが、それだけでは目的を達成することは難しく、地域住民活動を中心的に支援している社会福祉協議会が作成する地域福祉活動計画と連携しないといけないということである。

（委員A）基本理念にある「助け合い、支え合う」という文言の順番について、まず支え合って、その後に助け合うというイメージがあるかどうか。

（事務局）今回、第5次計画を策定するが、伊万里市総合計画の内容も確認し、素案を作成する際に、委員のご意見も含め検討していきたい。

（委員B）基本目標3における「安心して暮らすことができる地域づくり」と「安全な地域づくり」についても先程の意見と同様に、安全が対応・対策できるからこそ、安心して暮らすことができると思う。

（事務局）先程のご意見同様、計画素案を作成する段階で、頂戴した意見も含め検討していきたい。

(委員C) 地域福祉計画に盛り込む事項として、「福祉サービスの適切な利用の促進に関する事項」というのがある。市民目線でいくと、福祉サービスについて、わかりやすくすることが必要と感じる。市民にはわかりづらく、どの部署へ相談に行けばよいか、理解するまでに時間がかかるケースがあると思う。

(委員長) その通りと考える。市民にわかりやすくする取り組みはこれからも引き続き必要である。

(委員D) 少子高齢化ということで子どもの数も減ってきているが、子供会など活動への参加自体も減ってきている。学校で子どもたちが福祉の学習をしてもそれを発揮できる環境がないと感じている。先程から話があっているように、市民が一人ひとりできることを協力してやる、そういう組織づくりを一緒に考えていかないといけないと感じている。

(委員長) 団塊の世代の出生者数は全国で毎年270万人程いたが、現在の出生数は68万人ぐらい。子どもが減っていく中で、やはり地域社会の中でどう関わりをもっていくかは、みんなで考えていかなければと思う。

(委員E) 昨年、地区内の小学校での総合学習で、民生委員の仕事や活動内容について劇形式で実施した。高齢者や外国人などの気持ち等がわかってもらえる、理解してもらえる活動は必要と感じているところである。これからの地域を考えると子どもたちがその担い手であり、子ども世代への教育は大事と思っている。

(2) 現計画の取組状況と課題、今後の方針について

資料を用い、現計画の3つの基本目標ごとに、市と社会福祉協議会がそれぞれ説明を行った。

(委員F) 社会福祉協議会の取組みの中で、「なんでも福祉の相談所」の相談内容とその件数について教えてほしい。

(事務局) 社会福祉法人が取り組む地域貢献活動の一つとして、地域の事業所と連携し、伊万里市地域公益活動推進協議会を令和元年度に設立しており、高齢者、障がい者、保育園などの事業者15事業者が加入されている。様々な分野の相談について窓口を設置し、相談を受け付け、事務局へ繋いでもらっており、昨年は7件の相談があっている。ちょっとしたお困りごとに関することも含め、対応してもらっている。その場で対応してもらったり、必要に応じて事務局へ繋いでもらったりという体制で対応している。

(委員 G) 関連して、なんでも福祉相談所は、のぼり旗か何かあるのか。

(事務局) 加入している事業所には、ピンク色でなんでも福祉相談所と書いてあるのぼり旗を設置していただいている。

(委員長) 成年後見制度は大きく変わろうとしている。我々、社会福祉士会でも本人の意向を大事にしながら使いやすい制度に変わっていこうと取り組んでいる。安心サポート事業の方も同様に変わってきており、幅広い需要に対応していくことが必要となっている。今回の地域福祉計画でも少なくとも大きな方針は入れていくべきと考える。

(委員 H) 民生委員・児童委員について、担い手不足という言葉が多く聞かれた。配置率はどのくらいなのか。

(事務局) 民生委員・児童委員は、市町でそれぞれ定数が定められている。本市は 163 名であり、現在就任いただいている数としては 161 名となっている。

(委員 I) 地域座談会の話があった。過去の座談会で地域内にスーパーがないため、買い物支援の要望があった。社協にも対応いただいて、昨年 11 月から毎月 1 回市内スーパー等への買い物支援を実施してもらっている。これからの社会変化に伴い課題が新たに出てくる中で、地域座談会は地域課題を見つけるためにも必要だと感じているところである。

(委員 J) 防犯について、犯罪等の情勢は随時変化していつていると感じている。非常に凶悪なケースもあり、市民の方も防犯について非常に不安を持たれていると思うので、不安を解消できる取組みが見える形で策定する計画の中で取り入れたらと思う。

(事務局) 計画素案を作成する段階で、頂戴した意見も含め検討していきたい。

(3)伊万里市地域福祉計画改定のためのアンケート調査(案)について

資料を用い、前回アンケートからの項目の追加や対象者数などについて説明を行った。

(委員 K) 前回調査時もインターネット (QR コード) も使われたのか。

(事務局) 前回、5 年前の調査時は、インターネットでの回答は加えておらず、今回調査からとなる。

(委員M) アンケートの対象となられた方で、漢字が読めない方や視覚障がいの方への対応はどのように考えているのか。

(事務局) ルビを振る、聴覚障がい者へはサポートをお願いする旨、発送する文書に記載するなど対応していきたい。

(委員長) 他に委員の皆様から意見はあるか。他に何か気づきがあれば事務局まで連絡してもらえば対応してもらえと思うので、よろしくお願いしたい。

6. 閉会

